

第 11 回すばる小委員会議事録

日時：10月23日（火）午前11時10分より午後3時45分（JST）

場所：国立天文台 解析研究棟 TV 会議室 ハワイ観測所と TV 会議接続

出席者：有本信雄、市川隆、伊藤洋一、岩室史英、高田唯史、浜名崇、
山下卓也（以上三鷹）、

臼田知史、高遠徳尚(午後3時以降)（以上ハワイ）

欠席者：片坐宏一、小林尚人、定金晃三、土居守、山田亨、林正彦

書記：吉田千枝

1 国際協力の進捗

1.1 プリンストン大学との協力

委員長：プリンストン大学の E. Turner 氏が来台して台長・委員長と話し合った。プリンストン大学との共同研究は台長の承認を得て進みつつある。MOU 案は UM の前にできる予定だが、ユーザーへの通知はいつ、どのように行うか？

C：早く知らせたほうがいい。

委員長：SAC は委員の所属に関係なくすばるの将来を話し合う場だが、各大学に情報を流す役割を SAC 委員に期待している人もいるようだ。

C：委員長名のまとまった文書があると説明しやすいが。

C：Turner 氏は京大と東北大にも来て説明した。100 夜使うという話も出たが、大学では「HSC を実現するためには仕方ない」という空気だった。

委員長：UM の前にコミュニティーの意見を吸い上げることができるとよい。

プリンストン大学との共同研究について各大学で意見を聞いてみてほしい。

C：UM 前におおまかな情報が知らされた上で、UM で MOU のドラフトが提示されるのがいいと思う。事前情報はあまり多くなくて数行程度でいい。

委員長：Turner 氏が気にしていたのは、プリンストン大学所属の人が Open Use に普通に応募して例えば 5 夜採択されたとしたら、プリンストン大学が使う 100 夜からその分を引くことになるのか？ということだ。それは引かないという理解でいいか？

Q：Open Use に外国人枠という縛りはあるのか？

委員長：実質的にはない。プリンストン大学は理論系の人が多いので、観測プロポーザルが大量にくることはないと予想している。

副所長：そういった双方の利害については、双方の代表者で構成する Collaboration Committee で話し合う、という条項が MOU に盛り込まれる予定だ。

1.2 台湾との協力について

特に進展はないが、台湾が興味を持っている分野の研究者（SAC で選定）を、本人の了承を得て先方に知らせた。あとは台湾側から個別にコンタクトしてもらう。

1.3 Gemini との協力について

委員長：WF MOS については前回の UM でユーザーの不満があるようだったが、それは WF MOS をすばるに載せて Gemini の人が使う、すばるユーザーは代わりに Gemini を使うという話だったからだろう。そうではなく、WF MOS を自分たちの装置の一つと考えて対応していきたい。このまま待っているのは WF MOS の設計が決まってしまうので、積極的に参入したい。日本側のコンタクトパーソンとして、委員長以外に SAC から 1 人、観測所から 1 人程度出すことになるだろう。

C：自分たちの装置として考える、というのにもいろいろなレベルが考えられる。

C：現実的には非常に難しい。FMOS でもそうだったが、自分たちが製作する部分を確保して進める形で、共同作業というわけではない。各々がバラバラに製作している。サイエンスは共同研究ができるが、テクニカルには研究者が向こうに行つて加わるという形を取らざるを得ない。

C：確かに先方に日本人が行くことも大事だが、装置の完成後に運用を担当するのは日本側だろう。

C：維持費の問題もある。

委員長：実際に完成後はどういう運用形態になるのか？ 一般の共同利用にあまりしわ寄せが来ない形で、新しい運用形態を実現できればいいが。

C：運用の問題は HSC についても同様だ。装置を製作した人に来てもらってレクチャーを受け、今いる SS が運用していくことになるだろう。

C：すでに設計図ができつつあるところに参入するのは面白味がない。本当に WF MOS に参加しようという人がいるだろうか？ 技術を学んできて、それが生かせるプロジェクトが日本にあればいいが。

委員長：WF MOS のために人を送るのではなく、次の装置を作れる人材を育てるため

に送るのだろう。

- C : WFMOS は最初は PI タイプの装置として扱うのがよいと思う。持ち込み装置として 100 夜程度好きに使ってもらい、その間に運用の仕方を学んで、それから共同利用装置にすればよい。500 夜使うなどというのは日本のコミュニティは受け入れられないだろう。「最初から夜数の保障はできないので、Open Use で勝ち取ってください」というのがよい。
- C : 8M 望遠鏡で 30M 望遠鏡に対抗しようとする、WFMOS で 500 夜のサーベイというのは自然な流れだと思う。
- C : 多様なアイデアに対応できる多様な装置があれば、望遠鏡に活気があるのではないか？
- C : 逆に、突出した一つの装置があるから次に進める、という面もある。岡山でも HIRES の成果があったから装置を増やすことができた。
- C : 両方真実だろう。特色のある装置が必要なのも確かだし、いろいろな可能性が必要なのも確かだ。
- C : それらの装置にどのように時間を割り振りするかが大事だ。
- C : WFMOS について一つ楽観できる点は、明夜、赤外の装置は使える時間が残ることだ。
- C : WFMOS の観測時間のうち、共同利用に供する部分を毎年少しずつ増やしていけばよい。それを契約の際に条件にしておけばよい。
- C : 向こうは投資額に見合う夜数を要求してくるだろうが、こちらにはこちらの希望があり、言いなりになる必要はない。
- C : 現状はまだ「WFMOS を作ったらすばるに載せる」という一筆がほしい、という段階だが、運用のプランは最初から立てておく必要がある。

*Gemini の装置について

- Q : Gemini の装置はなぜ不人気なのだろう？
- C : 現有装置には魅力がない。将来はよい装置ができるようだが。
- C : GMOS はよいと聞いたが？
- C : すばるにない LGSAO や面分光装置があるのだが、なぜかすばるユーザーからはプロポーザルが出なかった。
- C : あまり Gemini のことを知らないのではないか？
- C : 宣伝が足りないのであれば、UM の際に機会を設けるが？
- C : UM でその装置を使った人に装置の紹介をしてもらえるとよい。
- 委員長 : Gemini の装置を研究して使おうという流れと、自分たちの装置として WFMOS を使おう流れと二つできるかもしれない。Gemini との協力について引き続き検討していく。

2. すばる UM の準備

2.1 世話人の推薦

後半の国際協力に関するセッションも同じ世話人が担当することとする。

SAC から有本、浜名の 2 名、三鷹光赤から今西氏、ハワイ観測所から表氏、臼田氏に依頼することとした。

2008 年 5 月 15 日－16 日（HST）の Gemini との研究会についても日本側の SOC 候補者を検討した。11 月初旬に委員長から就任依頼状を送付する。

2.2 UM のアウトライン

前半 1.5 日は日本語セッション、後半 1.5 日は国際協力に関する英語セッションになる。

UM での検討事項は

- ・ 戦略枠についての報告並びに議論
- ・ プリンストン大学との共同研究についての経過説明

MOU の概要について

- ・ WFMOS

我々がどういう要求を出すかに Gemini 側は関心を持っている。

- ・ 台湾

後半の国際協力に関するセッションには、UM とは別の名称をつけることとする。

まず所長から状況報告を行い、プリンストン大学、台湾、Gemini からのアピール、それに対する質疑応答、とする。

C:いきなりその場で質問はできないので、典型的な Q&A を準備しておいてはどうか？

委員長：SAC 委員で分担して Q を準備したい。向こうから来る人に「こういう話を
してほしい」と依頼する必要がある。

C：UM で発言する人が固定化している点を何とかできないか？

C：情報が流れていないために意見を出せない、という面もあるが、最近の若い人は
ものを言わない傾向がある。

C：話が進んでしまってからユーザーに事実が知らされるはよくないので、ユーザーに
情報を提示した上で議論してもらうことが大事だ。

委員長：世話人で検討して案を提示したい。

3. 戦略枠審査について

委員長：

SAC 委員 3 名から、HiCIAO チームに研究会を開催してもらってチームの再編成をしたほうがよい、という提案あった。第一回の公募なので、将来に遺恨を残さないように進めたい。組織作りに関する報告書については、研究会の後で提出してもらおう形で、採択決定を延期してはどうか？

C：装置の性能が出るのが 5 月なら急ぐ必要はないだろう。

C：戦略枠公募案には当初研究会開催も含まれていたが、審査過程を簡素化する過程で抜け落ちてしまった。

委員長：委員長から PI に研究会の開催を要請する。研究会には SAC 委員ができるだけ出席して議論を聞くようにしてほしい。

4. 報告事項

4.1 すばる秋の学校の実施報告

参加申し込みが多く、競争率が高かった。参加者は M1 を中心に 25 名。何をやりた
いかがはっきりしている人を書類選考で選んで参加してもらった。概ね好評だったが、
参加者のレベルがさまざまなので、次回から春と秋の 2 回開催とし、春の学校は初心者
(学部 4 年等)対象としたい。日程を早く決めてほしいという要望があり、春は 5 月
7-9 日に決定した。秋は中級者向けとし、10 月の 10 日前後に開催したい。

Q：参加者の分布はどうなっているのか？遠方からの参加もあるのか？

A：北海道や愛媛からも来ている。以前は地元の東大は断っていたが、最近は入れて
いる。1 つの大学から多くは取らないようにしている。旅費は院生には出るが
学部生には出ない。

C：各装置に特化した話は自分も指導できないので助かる。

C：各大学の先生をもっと講師に迎えてはどうか？

4.2 装置マニュアルの整備について

副所長：MOIRCS と COMICS については秋の学校後に update した。

COMICS と IRCS の撮像については英文版が今年中にできる。

MOIRCS の需要が高いので、充実させていきたい。

C : MOIRCS 分光のマニュアルが欲しい。

C : 整備ができた時点で、Tennet や Gopira に情報を流してほしい。

5. 次期観測装置提案の検討

第 4 章 high-z QSO 探査

第 5 章 遠方銀河探査

第 7 章 形成の初期段階にある銀河の探査

第 10 章 QSO 吸収線系と銀河の関係

第 13 章 SNe

以上の 5 章について検討した。

委員長：各委員のレビューコメントを 5-10 行に整理して、著者に返したい。

それを反映させた改訂をしてもらった上で紙版を出版し、ウェブにも

公開したい。SAC としての対応（どの装置を推奨するか等）も検討

する必要がある。

C : 2 ページ程度の概要をつけた SAC への要望書を出してもらってはどうか？

●次回委員会日程確認

11 月 20 日 (火)